

令和6年度 総務委員会管外視察について

1 背景・目的

- ・飯田市は、昭和12年の市制施行以来、6回の合併を繰り返したが、合併後も旧町村単位のコミュニティが継承され、暮らしに密着した住民主体の地域づくり活動が活発に行われてきた。
- ・そのような中、平成19年には地方自治法に基づく地域自治区を導入。住民自治の充実を図る観点から地域自治組織を導入したが、社会環境が変化する中で、地域に対する住民の意識も変容してきており、近年は、組合への未加入や住民組織（まちづくり委員会等）の役員の担い手不足といった課題が顕在化してきた。
- ・また、コロナ化を経る中で、飯田のまちづくりの合言葉である「ムトス」の精神が弱まりつつあり、“やらされ感”が表面化してきている。
- ・委員会の所管事務調査のテーマである「人口減少、少子高齢化、社会経済情勢が大きく変化する時代にあっても、“住み続けたい、住んで良かった”と思える飯田にしていくためには」のキーワードである「“住み続けたい、住んで良かった”と思える飯田」とは、即ち、「地域での暮らしやすさ」や「持続的な地域自治の在り方」を考えていくことであり、これらを考える機会として管外視察を行う。

2 視察の視点

視察先の取り組みを聴取するとともに、下記の視点について意見交換を行う。

- ① 組合未加入世帯（者）への対応をどのようにしているか（災害時等における必要性をどう考えているか）
- ② 住民組織（各種団体）の見直しを行ったか、住民の選出や役員への成り手について仕組みがあるか
- ③ 行政と住民組織（各種団体）との関係はどうか
- ④ 行政はどのような役割を果たしているか
- ⑤ 地域幸福度（Well-Being）をどのように活用しているか（「地域での暮らしやすさ」や「持続可能な地域づくり」等、地域課題の発見や解決に活用を図れるか）

3 視察先

調整中（6/5 総務委員会協議会までには確定）